

若手職員のワーキンググループの活動について
(中間報告)

D X 戦略本部事務局

1 目的

D X の推進に向け、庁内の若手職員によるワーキンググループを設置し、各部局でのデジタル化及び D X の実現方法等について研究するとともに、D X の理解と機運の醸成を図る。

2 活動内容

各部局から D X の推進に向けた研究課題を集め、その中からテーマを三つに集約し、グループ分けを行い、研究活動を開始。

- ・ 7月 6日 知事と意見交換
- ・ 8～10月 民間企業や大学と意見交換
- ・ 9月29日 秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアムと意見交換

(1) スマート集落の推進

概要	中山間地域等において、人口減少や少子高齢化の進行により、交通や買い物、医療といった日常のサービス機能が失われつつある。先端技術の活用により、誰もが健康で生き生きとした生活を送ることができるスマート集落の推進について検討する。
検討状況	自動運転による地域公共交通の確保やドローンによる買い物支援、オンライン診療などの先端技術を活用できるスマート拠点を整備するとともに、人と人とのコミュニケーションが生まれる地域住民の交流の場づくりを提案したい。 知事から、高齢者が抵抗なく使用できるインターフェースが必要との助言をいただき、どのような手法があるか検討していきたい。 秋田大学水戸部研究室を訪れ、オンライン診療に用いられる VR 技術等の研究について学んだ。 株式会社スリーアイバードと意見交換を行い、物流ドローンの法規制や最大積載量、導入費用等について学んだ。
今後の予定	スマート集落の実現に向けて、法規制など様々な課題を深掘りするとともに、スマート拠点に足を運びたいような仕掛けや楽しみ、やりがいについて検討していきたい。

(2) 庁内手続きのデジタル化

概要	デジタル技術を活用し、県民の利便性向上や職員の業務効率化を目指すため、次の4点について検討する。 県民申請手続きのワンストップ化 テレワークの推進を図るコミュニケーションツール 業務の効率化を図る庁内システムの再編 ペーパーレス化やモバイルワークの推進
検討状況	について、同意書を添付することにより各種証明書を庁内関係者間で確認できるような仕組みの必要性を検討している。 について、ドコモCS東北秋田支店と意見交換を行い、職員の携帯電話を内線化するサービスにより、テレワーク時のコミュニケーションの円滑化等に期待できることを学んだ。 について、NTT東日本と意見交換を行い、モバイルワーク時に簡易な操作で業務報告書を作成できるアプリについて学んだ。
今後の予定	検討事項の実現に向けて障壁となるそれぞれの課題を更に洗い出し、解決につながる研究を進めていきたい。

(3) 産官データの連携及びオープンデータ化による民間企業等への支援

概要	データを活用した新たなビジネスモデルを創出するため、オープンデータや官民データの連携の可能性について検討する。
検討状況	一般社団法人あきた白神ツーリズムと意見交換を行い、観光ビジネスの戦略立案には、人流データなどが有効であることを学んだ。 農業データ連携基盤協議会 WAGRI と意見交換を行い、気象や栽培、流通等の農業データの基盤や提供体制は整っているが、農業従事者の8割はデータを活用していない実態があることを学んだ。
今後の予定	観光事業者が必要とするデータの収集方法について検討するとともに、大半の農業従事者がデータを活用できていない課題について深掘りしていきたい。また、庁内のデータがなぜ他部署で活用されていないのか、どうすれば異分野のデータの活用ができるのか研究していきたい。

3 今後の活動

D X推進アドバイザーからの助言を得ながら研究を進め、来年3月のD X戦略本部会議において、各グループの研究成果を報告する。